

(1) 繊維

15 / 14 16 / 15 伸び率 10%以上 ● 伸び率 0 ~ 10%
: 天気図マーク; ● 伸び率 0 ~ 10% 伸び率 10%以下

1 . 企業経営動向

(1)需要

- ・ 15 年度後半から景気が全体的に回復に向かい、個人消費も持ち直してきたものの、繊維の国内需要は、衣料品分野を中心として引き続き不振である。
- ・ 輸出は全体的に低調である。15 年は前年に引き続き対前年比で減少したものの、16 年に入ってから概ね増加している（出典：貿易統計）。こうした状況の中、各繊維業界においては輸出振興の動きが広がっており、様々な取組がなされている。

(2)生産・設備稼働

- ・ 16 年度に入ってから繊維工業全体の生産は前年に引き続き前年度比マイナスが続いている。また、在庫についても引き続きマイナスとなっている（出典：繊維統計）。生産、出荷の減少は、内需不振、不採算部門からの撤退、東アジアを中心とした生産体制のグローバル化によって国内生産比率が低下する傾向にあることを要因としている。在庫についても、引き続き生産調整を行うことで、減少傾向が続くものと見込まれる。
- ・ 生産能力はこの 2 年で 13 %程度低下するなど、一貫して下落傾向にあり、14 年度も前年度比 7.3 %程度低下している。一方、稼働率は緩やかな上昇傾向にあるものの、水準としては大きな変化はない。（出典：繊維統計）

(3)企業収益

- ・ 企業収益は、全体的に引き続き低調である。景気が全体として着実な回復を続けていることもあり、合繊・紡績の大手主要企業では H15 年度の決算でコスト削減効果等により利益を改善させた企業も見られたが、繊維業全体としては今後も引き続き厳しい状況が続くと見込まれる。

(4)財務

- ・ 主要企業では、借入金を減らすなど、財務体質の改善への取組を進めているが、全体として企業財務は引き続き厳しい状況にある。

2 . 設備投資動向

(1)これまでの設備投資の推移

- ・ 繊維業界全体では、設備投資の実績は平成 4 年度以降前年度比割れが継続している。14 年度実績額は、227.4 億円（13-14 共通企業 34 社）対前年度比 27.1%とマイナス。15 年度実績見込み額も、291.7 億円（14-15 共通企業 45 社）同 7.5%と引き続きマイナス。

(2)平成 16 年度の設備投資計画

- ・ 16 年度の設備投資計画額は、全体としては 366.4 億円（15-16 共通企業 44 社）

同 + 25.8%と増加の見込み。

また、業種別に見ると、紡績は前年比 + 135.3%、染色整理は同 + 4.9%、化学繊維製造業は同 + 17.1%と増加の見込み。一方、衣服等では同 - 7.2%とマイナスの見込み。

- ・ 目的別投資内訳を概観すると、全体的には、更新・維持の割合が高い（15-16 共通企業 41 社においては 30.7%を占める）。全体に占める割合を前年度と比較すると、生産能力増強に係る投資の割合が減少する一方で、研究開発、省エネ・新エネ、環境保全、合理化・省力化に係る投資がわずかながら増加している。

また、業種別に目的別投資内訳を見ると、紡績では研究開発に対する投資が約 5 割を占めており、染色整理では、環境保全への投資及び合理化への投資が他業種と比べて高くなっている。また、化学繊維製造業については、生産能力増強への投資が若干増加している。

3．長期資金調達・運用動向

(1)長期資金運用動向

- ・ 16 年度計画においては、運用面では、設備投資所要資金については、約 32 %の増加がみられ、短期資金についてはマイナスとなっている。一方、投融資額は 2 倍以上の水準となっている。（15-16 共通企業 27 社）

(2)長期資金調達動向

- ・ 一方、資金調達方法については、16 年度計画においても、借入金を減らし内部調達の範囲内で設備投資をする傾向が続いており、借入金の返済が進んだ。（15-16 共通企業 27 社）

（グラフ 1：設備投資の前年比の推移）

